

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	都市基盤整備対策特別委員会		会議場所 第3委員会室
			担当職員 阿久根由美子
日 時	平成24年1月20日(金曜日)		開 議 午後 2 時 00 分
			閉 議 午後 3 時 25 分
出席委員	◎湊 ○日高 並河 竹田 齋藤 小島 立花 <中澤欠席>		
執行機関出席者	竹井企画管理部長、田中夢ビジョン推進課長、俣野夢ビジョン推進課副課長		
傍聴者	市民1名	報道関係者 一名	議員一名()

会 議 の 概 要

1 4 : 0 0

1 開議

〔湊委員長 開議〕

〔企画管理部 入室〕

1 4 : 0 3

2 議題

○第 4 次亀岡市総合計画～夢ビジョン～に掲げる将来人口の達成計画について

【企画管理部説明～質疑】

<企画管理部長>

平成 14 年度以降人口は微減傾向、将来予測人口は平成 32 年に 88,759 人である。総合計画策定時に定住人口の設定について議論が集中した。亀岡市の活力を生かし人口増加を目指す、希望を表すための目標数値として掲げている。具体的施策は施策大綱に定めている。セーフコミュニティの推進、活力、にぎわいの創出により目標を達成したい。

<夢ビジョン推進課長>

将来人口想定はまちづくりの活力を示す指標である。人口推移は 32 年度には 88,759 人で、15 年度から 20 年度の自然動態、社会動態から推計値を算出している。

特徴として世帯増、核家族化が増えている。89,000 人に加え土地利用として区画整理事業等による増加で 10 万人を設定している。都市計画課と議論を重ね設定したものである。

定住人口目標として、まちづくりの将来展望をする場合には下方修正できない。水道ビジョン 10 万人、2 市 1 町京都中部地区広域圏計画では 11 万 5 千人の計画人口を設定している。市街化区域は増加、市街化調整区域は減少の可能性がある。今後計画的な人口増を目指すため、土地区画整理事業の推進等を進め、子育てをはじめ施策の展開を進めていく。シンボルプロジェクトの推進にも努める。

14 : 23

【 質 疑 】

<立花委員>

- ① 土地利用が本委員会のメインテーマ。新たな住宅戸数は。
- ② 土地利用による将来人口の算定根拠は。世帯分離が多い、転入を想定されているのか。
- ③ 団地には空き家がある、調査されているのか。

<夢ビジョン推進課長>

- ① 個々の算出は都市計画課が詳細にしている。資料は持ってきていない。
- ② ③計画では世帯分離がおそらく加味されている。詳細な資料はいま手元にない。

<立花委員>

企画管理部が包括的に把握していないのか。何を聞いたら答えられるのか。今日の委員会は議論にならない。

<湊委員長>

都市計画課でないと答えられないというのでは議論にならない。答えられない部分は資料の提出なりをいただきたい。実際今は眠っている区画整理事業が多い、将来性がないと思われる。

<企画管理部長>

定住人口、にぎわい人口は目標数値である。人口増加策は今すぐにできるものではない、10 年の基本構想のなかで定めたもの。諸施策を行い必ず 10 万人になるのかというと明確には答えられないが、目標としている。

<湊委員長>

もっと準備をして委員会に出てきてもらいたい。

<齊藤委員>

計画的な市街化の誘導が必要だと思っている。具体的に地域の特性を生かしたまちづくりを進めようとしているのか。

<夢ビジョン推進課長>

土地利用に関しては区画整理事業の計画である。地区的な計画ではなく、大きなフレームの中でにぎわいゾーン等を設定している。

<齊藤委員>

ビジョンをはっきりするべき。地域ごと特色を付けて市民が選べるような魅力あるものを計画するべき。

<湊委員長>

アイデアはいいと思うが、組合等の施行なので行政はものを言えない。

<並河委員>

人口増加に向けて仕掛けていかないといけない。例えば子育ての面で亀岡市から南丹市へ転出した人もいる、魅力的なもの、他と抜き出たものがないといけない。

<夢ビジョン推進課長>

財源のこともあるが、意向に沿えるよう努めていきたい。安全安心は総合計画の柱で子育ては重要、住みたいと思うまちづくりに努める。

<日高副委員長>

資料2 ページ掲載の土地区画整理事業の現状は。

<夢ビジョン推進課長>

これから区画整理事業を始めるもの、大井町南部地区は今始まったところ、亀岡駅北地区は準備組合ができ今後本格的に組合施行で進められる。計画上区画整理事業が10年以内に整備されればこれだけの計画人口が増加する。

<日高副委員長>

10年以内にどこかの企業が入ってくるのかも見込まないと、前（第3次）総合計画と同じ（人口目標が達成できない）ことになる。

<湊委員長>

市街化区域に編入されるものが挙げられている。現状は田や山である。今後区画整理事業が始まるであろうというところである。人口予測は都市計画課が算出したと

いうことだが。

<企画管理部長>

市が策定委員会で調整した数値である。

<湊委員長>

大井町南部地区は商業、工業用地の計画であり、住宅ができない、（人口増加に挙げられている）根拠が分からない。

<立花委員>

人口目標に向けて具体的に実効性あるものを検討するのが本委員会の目的である。区画整理事業だけでなく施策的にどう人口増につなげるのか、いかに達成するのか全市的に把握し推進すべき課（が夢ビジョン推進課）ではないのか。もっと深めた内容のもの、説得力のあるものを統括する担当課として説明されないと、委員会も時間の無駄である。今後の見通しは。

<企画管理部長>

前期基本計画は目標数値を入れ、方向性を記載している。それに基づいて各年度予算化し推進していく。企画管理部は各部をコントロールし、推進を図る。

<湊委員長>

総括する課である。夢ビジョンがスタートして1年経過するなかで、どのような事業を実施して、このように変わり、その結果人口はようになったのか、というように成果として今後は出してもらえるのか。

<夢ビジョン推進課長>

事業ごと施策をチェックし公開もしたい。5年後後期基本計画では前期基本計画の成果を評価し作成する。各年度整理し評価していく。

<湊委員長>

年度ごと事業ごとの成果、評価を市民にも示すべき、広報が大事。5年間待たず公開すべき。行政が頑張れば市民の誇りをもって住むことができる。

<並河委員>

転入者より転出者が多いことの分析にあたって、市民ニーズは把握はしないのか。

<夢ビジョン推進課長>

なぜ転出されたのかは分からない。リサーチして分析を考えていきたい。

<竹田委員>

本委員会では土地利用、区画整理など事業推進状況の報告を受けて終わりではなく、行政と一緒に考えていきたい。各課に提案等も投げかけていきたい。

<湊委員長>

議会として関わる為に設置された委員会である。趣旨を理解され、企画管理部がリーダーとなり進めていただきたい。全体を把握し資料も収集しておいていただきたい。

<齊藤委員>

転出の理由は把握できないのか、アンケート調査を考えてみてはどうか。子育て施策だけでは人口増につながらない、利便性を考えたら都市基盤整備事業が重要。

<企画管理部長>

転出者の理由の分析は難しいが実態は報告できる。計画に沿って施策を実施し、評価も行う。目標なのでそういう思いを持ってやっていく。

<齊藤委員>

役所仕事だと感じる。数字は結果としてしか追っていない、どうしたら増加するのかがない。原因を調べないと次の施策もうてない。夢で終わらないように、本委員会の委員も人口を10万人にしたいという思いを持っている。転入、転出者に聞くのはよいことと思う。

<企画管理部長>

計画には数値を掲載した。毎年検証を行い、原因を調べ次に生かす。結果を人口増につなげたい。

<並河委員>

協力を求めるのは難しいが、市役所の窓口で転出者にアンケートをとり提案を求めるのはどうか。

<日高副委員長>

篠町は土地が安い。世帯増はUターンした人もいる。土地が安く自然豊かであるため転入する人もいる。どういことを求めているのか把握することは必要だと思う。施策展開も早くして行って、基盤整備も進めていかないといけない。

<湊委員長>

本委員では多方面から提言をしたい。

<小島委員>

オール亀岡の体制で頑張ってもらいたい。

○委員会調査について

<湊委員長>

中途半端な説明だった。出直して説明してもらっても同じことである。

次に委員会調査を議題とする。

<事務局>

委員会調査について、何が問題点か協議を。今後の調査の進み方を協議いただきたい。

<湊委員長>

本委員会も方向性を見失いかけていたが、軌道修正する。ご意見を。

<立花委員>

本委員会は都市基盤であるため、改めて計画の積算根拠を聞きたい。まずは基本を知る必要がある。そのうえで市民ニーズ、動向を知るためにも人口増加傾向の都市を独自に分析してもよいのでは。

<竹田委員>

具体的な施策は常任委員会でされる。アンケート調査などで亀岡版人口動態調査など短期間でやることを投げかけることも考えられる。

<並河委員>

篠町の温泉付き住宅は駅から遠い。亀岡市への要望もあると思う。地域の役員との懇談ができればよいと思う。

<湊委員長>

市民アンケート調査を所管に提案するのか検討も行ってみてはと思う。次回は都市計画課の積算根拠の説明を聞くのか、意見を。

<立花委員>

基本は知る必要がある。審議会で渡された資料も提出してもらいたい。

3 その他 ○次回委員会

<湊委員長>

次回は、都市計画課から説明を聞き、調査について検討を進める。日程は4月9日の週で後日連絡する。

<事務局>

理事者説明は資料2ページの土地利用の積算根拠について説明を求めるものであり、今後の本委員会での調査は提案をまとめる方向で進めるということで確認させていただく。(了)

～散 会～ 15:25